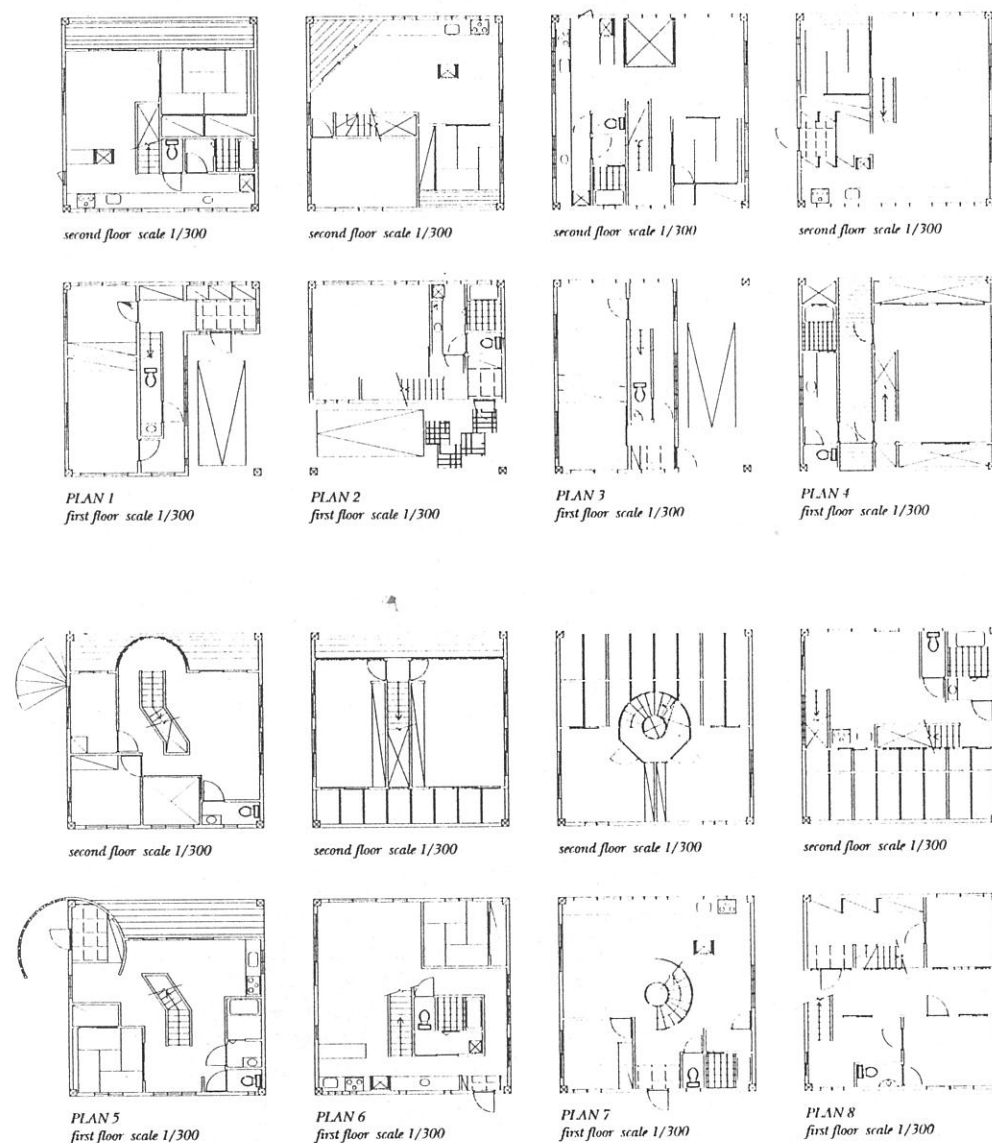




BVDハンガーシステムを利用した建築
PLAN-FREE HOUSE case study 8 & Villa Yunomaru for SLT Students
PLAN-FREE HOUSE の提案 湯ノ丸温泉寮改築project

Shuhei Yokoyama
k98098 横山 周平

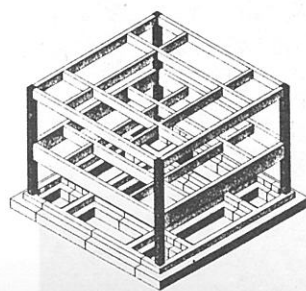


PLAN-FREE HOUSE 提案の趣旨

PLAN-FREE HOUSEは、従来の戸建住宅構造計画手法である単一の構造システムによる住戸計画に対し、大断面軸組構法<BVD構法>による主構造、小断面構造材パネル構法<軸組壁構法>による従構造の構造システムとし、より明解で自由な設計を目指す。

1. 主構造により如何ようにも調理可能な空間を提供する。
2. 従構造により変化する生活様式、家族構成に求められる多様な空間構成を提供する。
3. 協調する主・従の二重構造により、住戸プランは自由に計画され、より快適で居住性の高い住宅の供給が期待される。

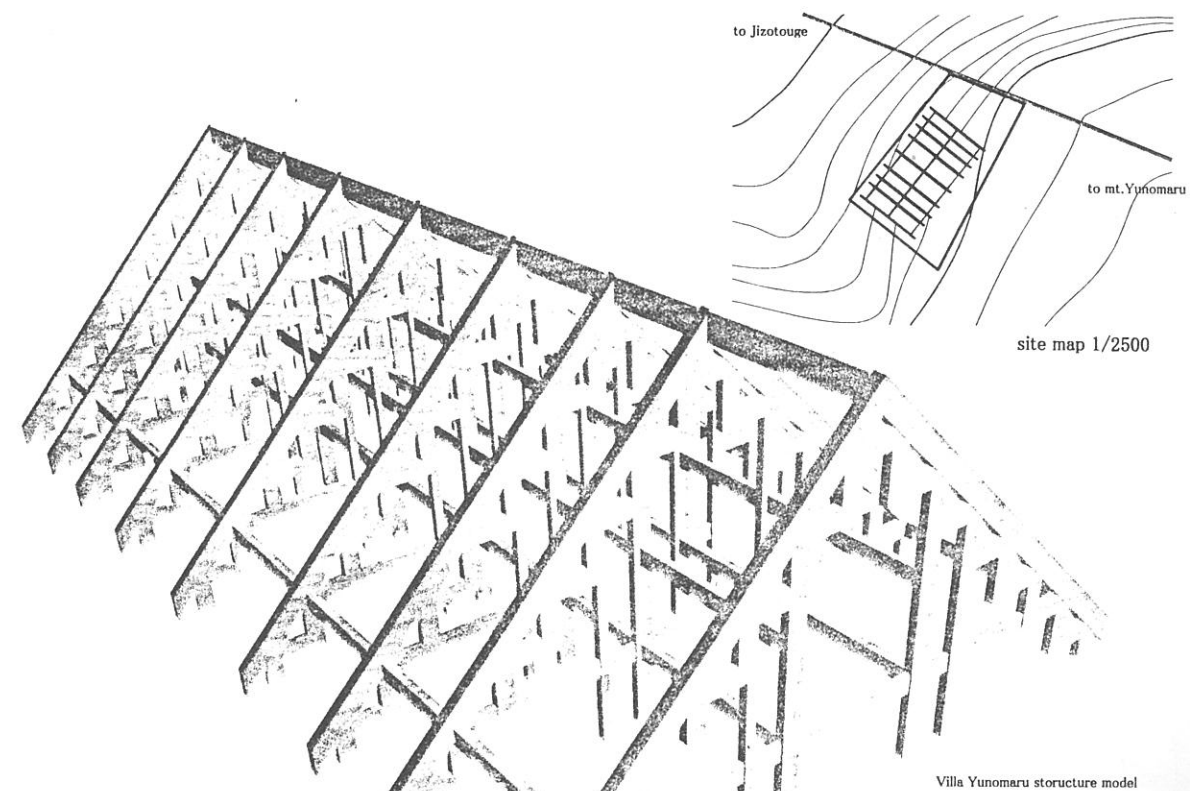
如何なる構法も構法の持つ制約条件の中で計画しなければならず、このことについてはPLAN-FREE HOUSEも例外ではない。しかし、クライアントが住宅建築に当たって望む種々の内容の中で、上記1及び2の内容は最も要求度の高い事項であると共に他構法では実現に困難を伴う内容でもある。PLAN-FREE HOUSEは、外枠・骨組みとしてのシェルは制限されるが、そのシェルの空間はPLAN-FREEである。PLAN-FREE HOUSEのネーミングの意図もここにある。



BVD構法を用いた主構造

指導教員 伊藤 洋子 教授

BVDハンガーシステムは、PLAN-FREE HOUSEのようなpost&beam架構の接合だけでなくトラスやアーチ架構の接合にも有効である。今回はVilla Yunomaruということでゲストハウスという用途から考えても、この土地の風上を体感し得る空間であるが望ましい。外部をいかに内部化できるか、外部を感じられるような内部空間を演出する事を今回のテーマとしたい。その手法として今回は建物中心部に大きなvoidを設け、top lightにより外部を感じられる事とした。



新構法木造建築の文化的意味

日本は古来より木の文化が根強い国であった。法的な規制も手伝い、一時はRC建造物に遅れをとっていたが、近年では消費者の意識が木の温かさや快適性を強く求めるようになってきている。またCO2排出量の制限が法的に厳しくなることから木のチャンスは大きい。木は、未だ潜在能力に富む、数少ない自然素材である。それを引き出す事が、これからの木造建築の役割といえるだろう。新しい構法の木造建築を提案するに当たり、伝統文化との関係について考えなければならない。木造の伝統を持つ産業国ならば日本でも他の国でも「伝統の喪失」というジレンマを抱えているのではない。伝統木造建築と新構法木造建築がいくらか職人の技術や建材の質、建物の個性を大切にすることはいても、「伝統」から失われる何かがあることは否めない。しかし、ほとんどの施主にとって最終的な判断基準が工期と費用にあり、家族の形態やライフスタイルが大きく変化した今日、伝統そのものであることの意義や重要性を改めて問うことも必要なのではないか。新構法木造建築は、伝統の上に革新を確立したものだといえる。諸先輩方が実践してきた多くの事例は、人と木の長い付き合いから得られた知識や経験の上にあり、現代の要求に合わせているものである。その結果たとえ見た目が変わっても、それは文化の喪失ではない。重要な事は今日でもなお木で建築が建てられているという点である。フレキシブルで経済的、環境や人体にもよく、デザイン性に優れた質の高い空間を実現できるような新構法木造建築の提案。それは、今の時代に現れた必然であり、木造建築が持続可能かつ新しい文化創造への道を歩む事のできる数少ない選択肢ではないだろうか。

